

山の麓に広がる 幻想的な町

歴史を物語る遺産を内包し、東黒海地方に位置するシャヴシャット。
山間に豊かな緑や清らかな水、そしてみずみずしく咲く固有の植物がこの町の今を彩る。
シャヴシャットは 2015 年にチッタスローに登録された。

トルコの北東、黒海地方の東端に位置するアルトヴィン県（Artvin）に属する町、シャヴシャット（Şavşat）。県の中心地から約71kmとアクセスは悪くない。空路で最も近いのはカルス空港となる。

黒海地方だが内陸の町で、気候は湿った黒海気候と東アナトリアの大陸気候との中間。中心部が海拔1000m前後はある山岳地帯でもあり、最も高い山は標高3167mにもなる。それゆえ、丘陵地帯や山脈から豊かな水が供給され、高地には固有の植物が咲くのがシャヴシャットの魅力だ。

人口2万人弱のこの町では、かつて織物や石積み、大工などの仕事で人々は生計を立てていたという。今ではそのどれもが衰退したが、地域固有のカーペットとキリムの伝統を守るため、地元の女性グループが町に織物研修センターを設けている。また、かつての人々の暮らしは、伝統文化博物館で垣間見ることができるので足を運んでみるのもいいだろう。今、この地域を支えているのは、広大な牧草地での畜産業や農業、林業だ。多種多様な植物が自生することから、養蜂も地域の経済に貢献している。

シャヴシャットの歴史は何千年も前にさかのぼる。古くはギリシャやローマ、ビザンチン、オスマン、ロシアなどの統治下にあり、翻弄されてきた。そのため、町や郊外には中世とオスマン時代に建

設されたさまざまな歴史的建造物が残っており、興味深い。

歴史を刻む建造物

ここがジョージア王国の統治下にあったことを物語るのは、899年から914年の間にジョージア王の息子によって建てられた修道院、ジュヴィズリ（ティベツト）だ。宗教的・文化的な中心地となったが、地域のイスラム化によりモスクとして使用されたこともあるという。1885年に落雷を受け、現在は外観のみが残り、見学することができる。

町の中心部から約4km離れた場所には標高950mの岩場に建つシャヴシャット城がある。ジョージア王国のバグラト王朝が建設したといわれており、以後、統治した国々の下で歴史を刻んできた。2つの小さな礼拝堂や高い塔があり、約10mもの壁が巡らされているのが特徴で、発掘調査では浴場や倉庫、水槽、ワインセラーなどの跡、小さいものでは金貨や銀貨、石の砲弾や陶器などが発見されている。1987年に文化財として登録され、旅行者は無料で自由に歴史跡を見学することができる。

そのほか、1882年頃に建てられた装飾豊かな木造のヴェリキョイ・エスキ・アフシャブ・モスク、中世に造られたボジャナット川に架かるメイダングェック石造アーチ橋も見どころ。かつて聖職者の隠れ家として使われていたタマラ

ルームズと60m程の高さを流れ落ちるスアタン滝にも足を運びたい。

シャヴシャットの北東には、広大なカラギョル・サハラ国立公園が広がっている。町から約17kmのサハラ高原は松林が林立し、泉が点在する美しい景観で知られ、避暑地として訪れる人も多い。近くには独自の木造建築、コジャベイ・クシュラ山荘型ハウスがあり、キャンプも可能だ。

また、シャヴシャットから25kmのピア湖は人気のピクニックエリア。さまざまな種類の松が生息し、野生動物の姿を見ることもできる。

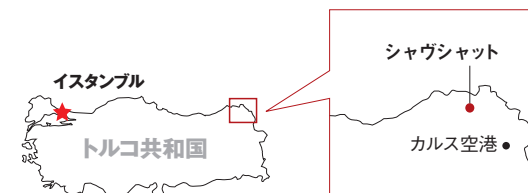
シャヴシャットから約40km、定期バスが運行しているアルシヤン高原も、森や草原、いくつもの湖がある自然豊かなエリアだ。植物だけでなく果物も豊富で、ありのままの自然が楽しめる。

ただ、シャヴシャットでは、有名だから、観光スポットだからと忙しく動き回りたくはない。ふと足を止めれば絵葉書のように美しい風景が目の前に広がっているからだ。町から約4km東のヤウズキョイまで車を走らせれば、見渡す限りの緑の谷に風が吹き抜けていく風景に息をのむことだろう。



チッタスロー（cittaslow）
「スローシティ」の意。地域独自の生活・歴史文化や自然環境など多様性を重視した町づくり活動。

シャヴシャット
Şavşat



1 約3万6000ヘクタールの牧草地にはアルトヴィン地域特有の昔ながらのトルコ式住居が点在する 2 60m程の高さを流れ落ちるスアタン滝 3 標高950mの岩場に建つシャヴシャット城 4 チョルフ川ではラフティングが楽しめる 5 山間部では雲海も見られる 6 美しい景観で知られるサハラ高原は避暑地としても有名

華やかなアルトヴィンの民族舞踊

トルコは地方ごとに多彩なフォークダンスがあるが、アルトヴィンの民族舞踊は集団で踊り、ほぼ肌は露出しないのが基本。男女は同じ場所にも別々にグループを作って踊ることが多いという。踊りには列になって手をつなぐスタイルや2人または2列が相対して同じ動きで踊るスタイルなどいくつかのパターンがある。ステップもさまざまで、生活の動作や動物を表す動きから、まったく意味のない動きまでであるというからユニークだ。

また、踊りも衣装も地域によって多種多様。

異文化を持つ各少数民族集団がさまざまな気候風土をモチーフにした踊りや衣装、楽器などを持ち込んでいるからだろう。

トルコ北東部で踊られるのは、東黒海地方のホロンやアナトリア東部のバー、アゼルバイジャン由来のアゼリなどがある。ホロンはテンポが速く、「クレイジーなホロンが3分踊られた場所には7年草が生えない」ということわざがあるほど。常に飛び跳ねるようにリズムを取るアゼリも、踊りながら座ったり立ったりと激しい踊り方が特徴だ。

